

フォトシティさがみはら歴代受賞作品展 記録のスペクトル

平成 31 年 2 月 20 日
相模原市発表資料



鬼海弘雄「しあわせ インド大地の子どもたち」より



長倉洋海「ヘスースとフランシスコ」より



古屋誠一「alive」より

■ 出品作家

鬼海弘雄

1945 年山形県寒河江市生まれ。1973 年から浅草で写真を撮り始め、1979 年に初渡印。以降、インドやアナトリア（トルコ）の撮影を重ねる。一貫して、市井に生きる人々が持つ存在感に迫る写真を撮り続けている。2002 年、フォトシティさがみはら「さがみはら写真賞」受賞。

長倉洋海

1952 年北海道釧路市生まれ。1980 年、時事通信社を退社後、フリーの写真家として世界の紛争地の取材に取り組む。アフガニスタン抵抗運動の指導者マスードやエルサルバドルの難民キャンプの少女ヘスースなど、対象に長く寄り添いながら写真を撮り続ける。2003 年、フォトシティさがみはら「さがみはら賞」受賞。

古屋誠一

1950 年静岡県生まれ。1973 年に渡欧後、78 年にクリスティーネ・ゲッスラーと出会い結婚。以後、彼女の自死まで妻を撮り続け、一連の写真群を数冊の写真集として編み直し発表する。2004 年、フォトシティさがみはら「さがみはら写真賞」受賞。

相模原市では 2001 年から写真の記録性をテーマに「相模原総合写真祭フォトシティさがみはら」を開催し、優れた写真作品への顕彰事業ならびに受賞作の収集を行ってきました。本年度までに開催された 18 回を通じ豊かな写真のコレクションを形成してきましたが、今回はその一端をご紹介します。

本展では、歴代の「さがみはら写真賞」を受賞した作家から 3 名に焦点をあてて作品を展示します。一筋の光がプリズムを通して様々な色のスペクトル（分光）に分かれるように、記録性というテーマから枝分かれして様々な表現を生み出す写真の豊かさをご覧ください。

■ 会期

平成 31 年 2 月 16 日 [土]—3 月 10 日 [日] (2 月 25 日 [月] 休館)

■ 開館時間

10:00 — 18:00 (3 月 2 日 [土] は 12:00 まで)

■ 会場

ユニコムプラザさがみはら マルチスペース

〒252-0303 神奈川県 神奈川県相模原市南区相模大野 3 丁目 3-2 bono 相模大野 サウスモール 3 階

■ 観覧料

無料

■ 主催

相模原市

■ 後援

相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら

■ みどころ

1. 相模原市の文化的特色を知る！

本市ではフォトシティさがみはらを「新たなさがみはら文化」として内外に発信しており、写真の持つ「記録、表現、記憶」といった特性を多くの人が身近に感じることができる市民主体の事業として開催してきました。

18 年にわたり育み続けている相模原市の新たな文化の特色をご覧ください。

2. 記録表現の豊かさを見る！

本展では、異国の人々のスナップショットにはじまり、フォトジャーナリズムとして紛争地域に生きる人々を撮った作品、妻を撮った写真をその死後に編み上げた作品など、様々な作品を展示します。

記録とひとくちにいっても社会的なものから私的なものまで多岐にわたります。そこから生まれる表現の豊かさをご覧ください。

3. 優れた日本写真作品にふれる！

フォトシティさがみはらの受賞作家たちは、いずれも日本を代表する写真家ばかりです。本展を通じ、優れた日本写真表現の一端にふれることができます。

問合せ先 | 相模原市民ギャラリー
電話 | 042-776-1262
担当 | 山田